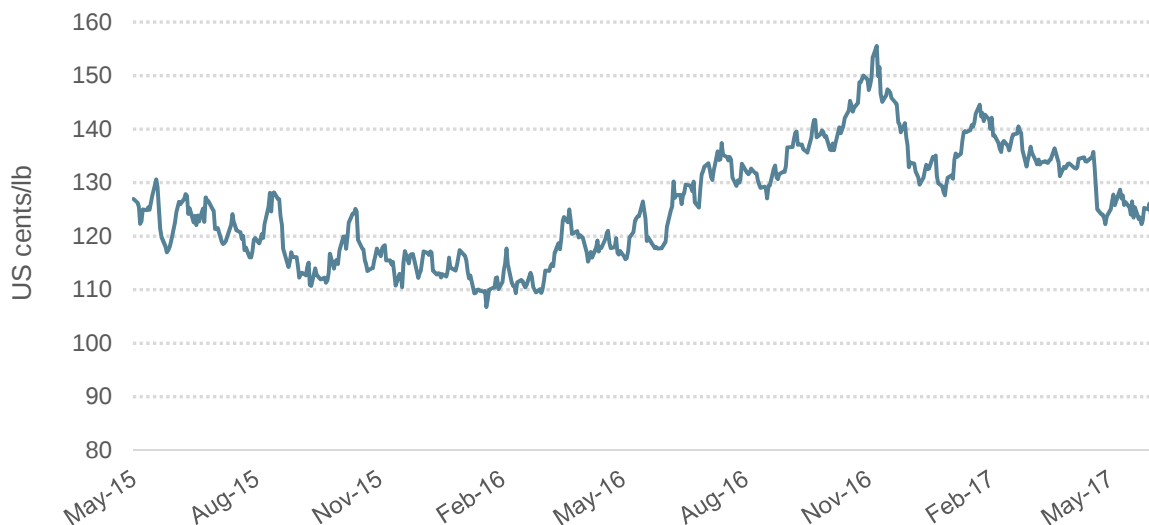




コーヒー価格は、下げ幅は小さくなったが引き続き下落した

今月のコーヒー価格は、今コーヒー年度最初の7ヶ月間の輸出量が多かった為消費国在庫は増え供給余力豊富だったことから、下げた。コロンビアマイルドの価格は3年ぶりにアザーマイルドの価格を上回った。ブラジル食糧供給公社（CONAB）は第2回目の2017/18年度コーヒー生産量見通しを発表したが、それによるとブラジルのコーヒー生産量は2016/17年度に比べ11.3%少ない45.56百万袋だった。

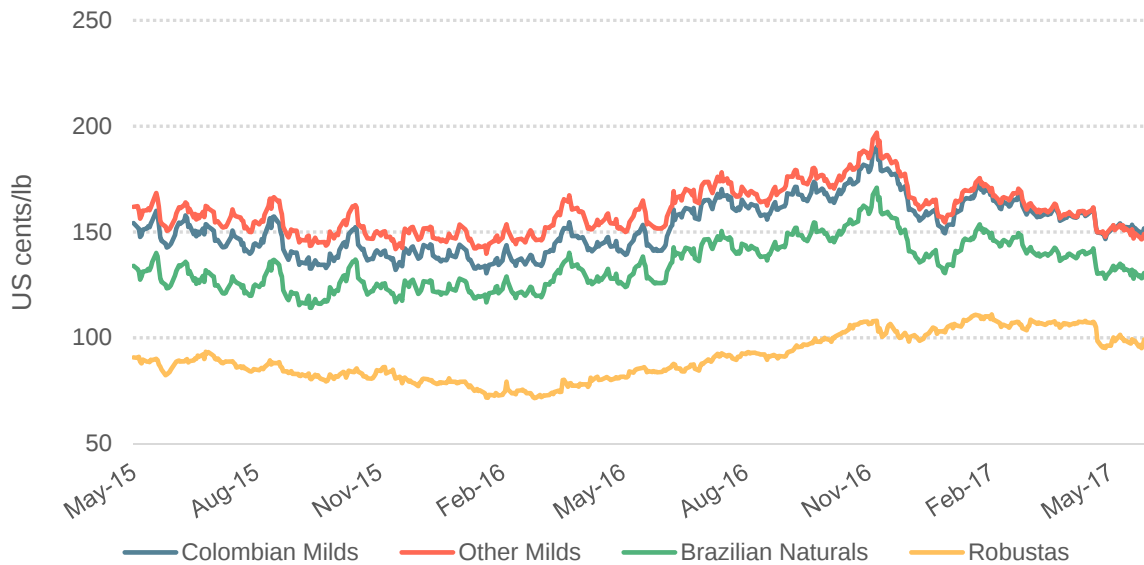
グラフ 1: ICO 日次複合指標価格



© 2017 International Coffee Organization (www.ico.org)

5月コーヒー価格は引き続き下落し、ICO複合指標価格の月間平均値は前月に比べ3.8%低い125.40米セント/LBとなった。ICO日次複合指標価格は月初には比較的堅調に推移し、5月8日には前月の下げ幅を取り戻し128.66米セントまで上昇した。しかし、その後反落し月末までにはこの上昇分を全て失い124.02米セント/LBまで下がった。

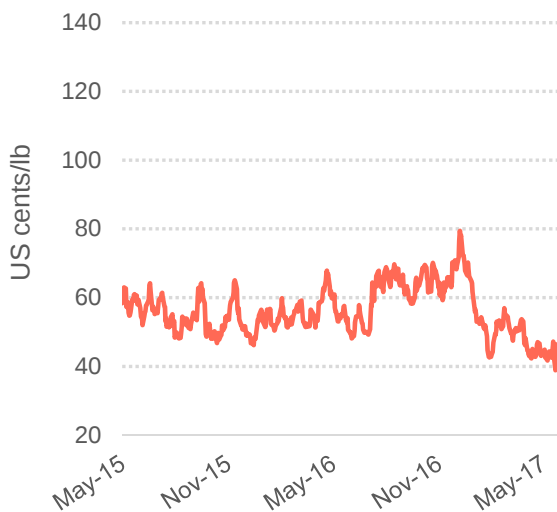
グラフ 2: ICO 日次グループ指標価格



© 2017 International Coffee Organization (www.ico.org)

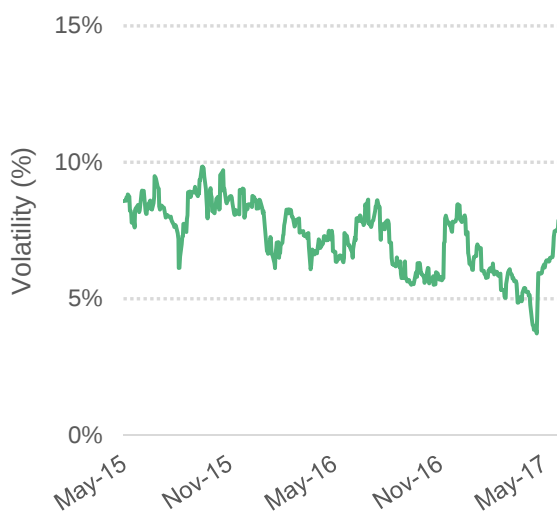
グループ指標価格については、ロブスタの価格が最も大きく下げ、2016年9月以来初めて100米セントを下回り、先月と比べ5%下落した。アラビカ3グループも全て下げ、コロンビアマイルド、アザーマイルド、ブラジルナチュラルの月間平均価格は夫々2.3 %、3.5 %及び3.6%下落した。ニューヨークとロンドン先物価格の価格差で測るアラビカとロブスタのアービトラージは2.7%上昇し45.10米セント/LBとなったが依然として低い水準と言える。一方、ICO日次複合指標価格の価格変動率は2016年11月以来最高水準となる6.9%まで上昇した。

グラフ 3: ニューヨークとロンドン先物市場のアービトラージ



© 2017 International Coffee Organization (www.ico.org)

グラフ 4: ICO 複合指標価格の30日移動平均価格変動率

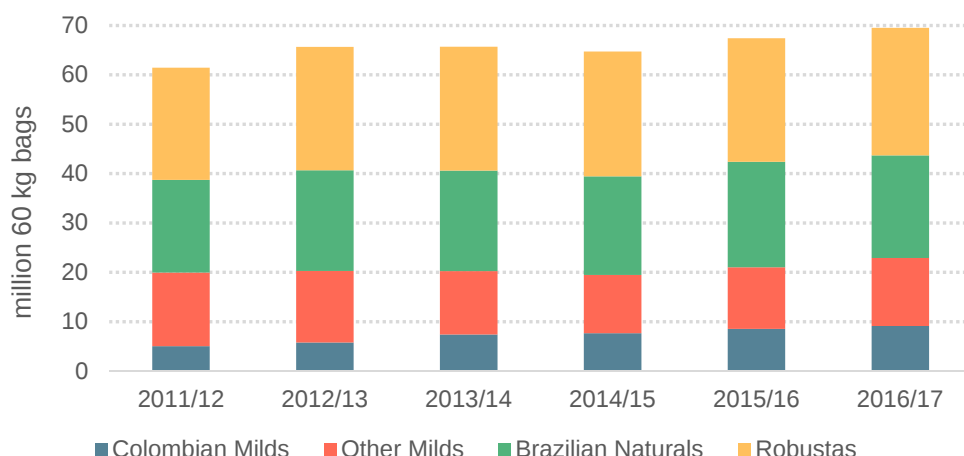


© 2017 International Coffee Organization (www.ico.org)

コーヒー価格は、気候絡みの供給懸念が和らいだことから、また全般的なコモディティ価格の下げもあり、2月以降下落傾向が続いている。ただ目立った出来事としてコロンビアマイルドが151米セントとなり、この3年間で初めてアザーマイルドの指標価格を上回った。これは2016年3月に両指標の価格差が-12.3米セントと最大となりその後、長期間ずっと縮小し初めて両指標価格が逆転したものである。特に2017年最初の5か月間、アザーマイルド指標価格の下落率はコロンビアマイルドより大きかった。コロンビアはコーヒー農園更新計画のお陰で順調に生産量を増やしてきたが、コスタリカ、エルサルバドル、ホンジュラス、グアテマラ、メキシコ、ニカラグア、ペルーなどのアザーマイルドグループ生産国は2012/13年度コーヒーサビ病が勃発し損害を被った。結果としてアザーマイルドの供給量は減り価格は上昇した。その後アザーマイルド諸国、特にホンジュラスとペルーの生産量は回復した。この為アザーマイルドグループの2016年5月から2017年4月の輸出量は前年同期比9.4%増えたが、それまで活発に輸出していたコロンビアマイルドの輸出量が横ばいになったことによるものである。しかし、ホンジュラスからの情報だと同国に新たなサビ病勃発の可能性が出てきているとのことである。

2017年4月の総輸出量は前年比大幅に減少した。輸出国の総輸出量は5.3%減の推定9.5百万袋となっている。特に輸出量が少ないのはブラジルで、13.5%減少し2.1百万袋となっている。ベトナムは前月比6.9%減少の予想である。最近になって輸出量は減少していると言うものの2016/17年度最初の7ヶ月（10月～4月）の累計輸出量は69.5百万袋に上り前年同期間に比べ3.1%増えている。結果として輸入国のコーヒー生豆在庫量は高水準となり供給余力は十二分にある状況である。

グラフ 5: コーヒーグループ別輸出量 (10月 - 4月)



© 2017 International Coffee Organization (www.ico.org)

ブラジル、インドネシア、パプアニューギニア、ペルー等多くの主要生産国では2017/18収穫年度が開始されている。ブラジルの政府機関、CONABは2017/18年度の第二回コーヒー生産量見通しを発表した。アラビカコーヒーの2年生産サイクルの為、今年の生産量は同機関の前年度生産量予想51.37百万袋に比べると11.3%少ない45.56の見通しとなっている。アラビカの実績は18.3%少ない35.43百万袋だが、ロブスタは増産予想である。即ち昨年の不作から主に天候に恵まれたお陰で今年度は生産量が回復し26.9%増の10.14百万袋となって

いる。CONABの予想数字は各種見通しの中では少ない範疇であり、例えば米国農務省の予想は前年度比4百万袋少ない52.1百万袋である。最近ブラジル通貨レアルが対米ドルで切り下がっているが、このお陰でブラジルコーヒー生産者の価格競争力は増加しており、コーヒーへの投資が増えることが期待される。

表 1: ICO 指標価格及び先物価格 (US cents/lb)

	ICO Composite	Colombian Milds	Other Milds	Brazilian Naturals	Robustas	New York*	London*
Monthly averages							
May-16	119.91	144.49	155.19	129.05	83.93	126.80	75.11
Jun-16	127.05	156.86	165.45	138.38	85.94	139.10	76.87
Jul-16	132.98	164.46	171.76	144.76	90.82	148.16	82.09
Aug-16	131.00	160.78	167.54	141.41	91.79	145.37	83.47
Sep-16	138.22	168.85	176.30	149.80	96.88	154.87	88.63
Oct-16	142.68	172.28	178.96	153.15	103.65	160.07	95.30
Nov-16	145.82	177.85	184.12	157.72	103.72	165.24	95.40
Dec-16	131.70	156.64	161.78	137.14	101.85	143.04	93.66
Jan-17	139.07	164.96	168.61	145.70	108.32	152.24	100.24
Feb-17	137.68	163.67	166.35	145.50	106.49	148.64	98.46
Mar-17	134.07	158.40	160.15	139.67	106.73	143.38	99.01
Apr-17	130.39	154.97	155.40	136.09	103.58	139.25	95.34
May-17	125.40	151.41	150.00	131.21	98.36	135.45	90.35
% change between May-17 and Apr-17							
	-3.8%	-2.3%	-3.5%	-3.6%	-5.0%	-2.7%	-5.2%
価格変動率 (%)							
Apr-17	5.0%	5.4%	5.5%	5.9%	5.5%	6.4%	5.9%
May-17	6.9%	6.8%	7.0%	7.8%	8.9%	9.2%	9.5%
Variation between May-17 and Apr-17							
	2.0%	1.4%	1.4%	1.9%	3.3%	2.8%	3.6%

* 第2限月と第3限月の平均値

表 2: 価格差 (US cents/lb)

	Colombian Milds Other Milds	Colombian Milds Brazilian Naturals	Colombian Milds Robustas	Other Milds Brazilian Naturals	Other Milds Robustas	Brazilian Naturals Robustas	New York* London*
May-16	-10.70	15.44	60.56	26.14	71.26	45.12	51.69
Jun-16	-8.59	18.48	70.92	27.07	79.51	52.44	62.23
Jul-16	-7.30	19.70	73.64	27.00	80.94	53.94	66.07
Aug-16	-6.76	19.37	68.99	26.13	75.75	49.62	61.90
Sep-16	-7.45	19.05	71.97	26.50	79.42	52.92	66.24
Oct-16	-6.68	19.13	68.63	25.81	75.31	49.50	64.77
Nov-16	-6.27	20.13	74.13	26.40	80.40	54.00	69.84
Dec-16	-5.14	19.50	54.79	24.64	59.93	35.29	49.38
Jan-17	-3.65	19.26	56.64	22.91	60.29	37.38	52.00
Feb-17	-2.68	18.17	57.18	20.85	59.86	39.01	50.18
Mar-17	-1.75	18.72	51.66	20.48	53.42	32.94	44.37
Apr-17	-0.43	18.88	51.40	19.31	51.82	32.51	43.91
May-17	1.41	20.20	53.05	18.79	51.64	32.85	45.10
% change between Mar-17 and Feb-17							
	P	7.0%	3.2%	-2.7%	-0.3%	1.0%	2.7%

* 第2限月と第3限月の平均値

P = Positive change

表 3: 世界のコーヒー需給バランス

Crop year commencing	2013	2014	2015	2016*	% change 2015-16
PRODUCTION	152 130	148 724	151 438	151 624	0.1%
Arabica	90 163	86 151	88 273	95 204	7.9%
Robusta	61 967	62 572	63 165	56 419	-10.7%
Africa	16 243	15 987	16 229	16 353	0.8%
Asia & Oceania	46 461	45 666	48 967	43 110	-12.0%
Mexico & Central America	16 598	17 116	17 291	17 740	2.6%
South America	72 828	69 954	68 951	74 420	7.9%
CONSUMPTION	149 032	151 822	155 712	155 100	-0.4%
Exporting countries	46 109	47 245	48 262	48 337	0.2%
Importing countries (Coffee Years)	102 931	104 577	107 450	106 763	-0.6%
Africa	10 595	10 739	10 745	10 774	0.3%
Asia & Oceania	30 714	32 602	33 665	33 669	0.0%
Mexico & Central America	5 158	5 240	5 311	5 237	-1.4%
Europe	50 169	50 907	51 802	51 544	-0.5%
North America	27 714	27 372	28 875	28 535	-1.2%
South America	24 682	24 962	25 313	25 341	0.1%
BALANCE	3 098	-3 098	-4 274	-3 476	-18.7%

単位：千袋

*推定値

表 4: 輸出国の総輸出量

	April 2016	April 2017	% change	October - April 2015/16	October - April 2016/17	% change
TOTAL	10 072	9 536	-5.3%	67 414	69 510	3.1%
Arabicas	6 032	5 713	-5.4%	42 370	43 671	3.1%
Colombian Milds	1 075	1 017	-1.4%	8 531	9 120	6.9%
Other Milds	2 418	2 385	-1.4%	12 477	13 753	10.2%
Brazilian Naturals	2 539	2 311	-9.0%	21 362	20 798	-2.6%
Robustas	4 040	3 823	-5.4%	25 044	25 839	3.2%

単位：千袋

表 5: ニューヨークとロンドン先物市場の認証在庫量

	May-16	Jun-16	Jul-16	Aug-16	Sep-16	Oct-16	Nov-16	Dec-16	Jan-17	Feb-17	Mar-17	Apr-17	May-17
New York	1.53	1.48	1.45	1.45	1.42	1.44	1.42	1.40	1.45	1.49	1.53	1.58	1.65
London	2.64	2.53	2.45	2.37	2.32	2.28	2.38	2.39	2.73	2.80	2.85	2.87	2.87

単位：百万袋

ートピックス（1）ー

カフェインに神経質になっていませんか？ その必要はありませんよ。

2017 年 5 月 4 日、全米コーヒー協会

もう一杯コーヒーを召し上がってください。

カフェインの安全性について過去になかった科学的検証が行われ、健康な成人が一日 4 杯までコーヒーを飲んでも（約 400 ミリグラムのカフェイン摂取）全く問題ないことが確認された（ただ、妊婦と未成年者はこの量より少し控える方がよいとのことである）。

この研究は国際生命科学研究所（International Life-Sciences Institute, ILSI）が行ったもので、この種のものとしてはこれまでで最大規模のものである。カフェインが人体に及ぼす影響について 700 以上の個別研究結果からデータを集め行われたものである。

コーヒーについて

重要なことは 400 ミリグラムはあくまで『ガイドライン』だということである。即ちカフェイン（科学的にはトリメチルキサンチン 1, 3, 7 として知られる）の摂取許容量は代謝量や遺伝因子などの要素で人により幅があるということである。幸い我々の体には、カフェインの許容量を減らす必要がある時にはカフェイン摂取を抑制するよう脳にシグナルが送られる機能が備わっている。

具体的にカフェイン 400 ミリグラムとはコーヒーではどの程度の量なのだろう？

まず、カフェインの量はコーヒーのタイプでも違うし、コーヒー木の種類でも違うということを知る必要がある。8 オンスカップ（224 グラム）に入ったドリップコーヒーのカフェイン含有量が、大凡 100 ミリグラムであり、それを基準とする。

貴方の飲んでいるコーヒーのカフェイン含有量はどの位だろう？

8 オンスカップのドリップコーヒー：平均値は 95 ミリグラム（幅 17～165 ミリグラム）

8 オンスカップのデカフェドリップコーヒー：平均値は 2 ミリグラム

2014 年度に行われた調査結果によると平均的米国人の一日当たりのカフェイン摂取量は 165 ミリグラムである。これはコーヒー 2 杯以下の量である。この数字は米国民食生活ガイドラインで推奨されている 3～5 杯を大きく下回っている。にも拘わらず、2017 年度全米コーヒー飲用調査（NCDT）によると、66%の人が、カフェインが心配でコーヒー飲用を控えているとのことである。

当然の事ながら、カフェインはコーヒーの持つ一要素に過ぎない。コーヒーを飲むと肝臓病が抑制されたり、長生きできるなどの様々な健康上のメリットがある。実際、世界保健機関（WHO）のがん研究機関（IARC）は昨年、コーヒーには幾種類かのタイプの癌を抑制する働きがあるとさえ報告している。

そして、コーヒーの多くの健康上のメリットは直接カフェインと関係してはいるが、飲もうと思えばデカフェも飲めるのである（調査によると焙煎コーヒーの香りはあなたのエネルギーレベルを上昇させる働きを持っている）。

最後に、どのコーヒーを飲むかは（個人的味覚、嗜好、許容範囲に基づき）あなた自身が決めるのである。ダブルエスプレッソがいいかデカフェカプチーノがいいかを決めるのはあなたである。カフェインの摂取が心配ならまずはあなたの体に聞きなさい、またネットで調べることも出来るし、医療専門家に聞くことも出来る。当然のことながらコーヒーだけがカフェイン摂取源ではないことも忘れないようにして頂きたい。

また大抵の場合そうだが、ブラックが好きか甘いのが好きか軽い味が好きかは、全て常識的範囲内のものを飲むのが体にいいようである。

以上

ートピックス（２）ー

今年、コロンビアコーヒー生産量は 4.8%増加している。

ボゴタ、2017 年 5 月 5 日（FNC 広報）

本年 1 月～4 月のコロンビアコーヒー生産量は 4.4 百万袋となり、前年同期間の 4.2 百万袋に比べ 4.8%増加した。ただ、4 月単月の生産量は 834 千袋（60 k g）であり、2016 年同月の生産量 1043 千袋に比べると 20%減少した。これは今年度前期の収穫をもたらす開花の時期が遅れたことによるものである。即ちミタカ（サブクロップ）ピークは本年 5 月後半以降となり今後収穫量の増加が期待できるだろう。直近 12 か月（2016 年 5 月～2017 年 4 月）の収穫量は 14.4 百万袋（60 k g）を上回ったが前年同期間の 14.5 百万袋と比べると 0.8%の減少である。

2017 年 4 月のコーヒー生産量（60 kg 袋）

2017 年 4 月	834000 袋（-20%）
2016 年 4 月	1043000 袋

2017 暦年のコーヒー生産量（60 kg）

2017 年 1 月～4 月	4423000 袋（+4.8%）
2016 年 1 月～4 月	4219000 袋

直近 12 カ月のコーヒー生産量

2016 年 5 月～2017 年 4 月	14436000 袋（-0.8%）
2015 年 5 月～2016 年 4 月	14553000 袋

今コーヒー年度のコーヒー生産量

2016 年 10 月～2017 年 4 月	8790000 袋（+5.1%）
2015 年 10 月～2016 年 4 月	8363000 袋

2017 年（1～4 月）のコーヒー輸出量は 4%増加した。

2017 暦年（1 月～4 月）のコーヒー輸出量は 4.4 百万袋を超え、2016 年同期間の輸出量 4.2 百万袋に比べ 4%増えた。4 月の輸出量は 936 千袋（60 kg）となり 2016 年 4 月の 931 千袋に比べると 1%増となった。直近 12 か月（2016 年 5 月～2017 年 4 月）の輸出量は 13 百万袋に達し昨年同期間とほぼ同じ輸出量である。今コーヒー年度（2016 年 10 月～2017 年 4 月）の輸出量は 8.4 百万袋を超え昨年同期間の 7.7 百万袋に比べ 9%増加した。

2017 年 4 月のコーヒー輸出量（60 kg袋）

2017 年 4 月 936000 袋（+ 1 %）

2016 年 4 月 931000 袋

2017 暦年のコーヒー輸出量（60 kg袋）

2017 年 1 月～4 月 4416000 袋（+4%）

2016 年 1 月～4 月 4234000 袋

直近 12 カ月のコーヒー輸出量（60 kg袋）

2016 年 5 月～2017 年 4 月 13027000 袋（—）

2015 年 5 月～2016 年 4 月 13090000 袋

今コーヒー年度輸出量（60 kg袋）

2016 年 10 月～2017 年 4 月 8426000 袋（+9%）

2015 年 10 月～2017 年 4 月 7714000 袋

以上

—トピックス（3）—

ワシントンはコーヒーに国境調整税 20%を課税するつもりなのだろうか？

全米コーヒー協会 2017 年 5 月 26 日

コーヒーの国境調整税（Border Adjustment Tax）は 15%か 20%の輸入関税になるかもしれない。全米コーヒー協会は課税反対のロビー活動を行う為に今週ワシントンを訪問した。

全米コーヒー協会 28 名の会員は上院議員、下院議員及びそのスタッフ等と予定されていた 68 会合に出席した。二日間に亘るロビー活動でキャピトルヒルには、コーヒー生豆への課税は除外されるべきであり、課税される場合には米国コーヒー産業に最悪の影響が出るだろうとの全米コーヒー協会の統一見解を彼らに伝えることが出来た。法案作成当局に影響力ある議会委員会委員の大半の国会議員（上院財務委員会委員の 80%、下院政策委員会委員の 75%）に会うことが出来た。

このコーナーで最近詳報したように、国境調整税は輸入品や輸出品に課税し国が税収を徴収するものである。これは Ryan-Brady 税改革包括構想に書かれているように法人税率を 35%から 20%に削減することで相殺されるものである。尤もホワイトハウス案は更に安い

税率 15%となっている、また Mnuchin 財務長官は国境調整税が未だ俎上に乗っていると発言している。

実際、もしコーヒー業界が輸入する全てのコーヒー生豆に 15%もしくは 20%課税されるとなると大変なこととなる。即ちコーヒーのほぼ 99.9%は輸入されているのでコーヒー産業の負担の増加は天文学的な数字になるだろう。明らかに業界の現金支出が増えるのみならず、国境調整税により特定国のコーヒー生豆輸入が妨害されることもあり、消費者価格が上昇し、更にはコーヒーの生産持続可能性で問題を抱えるコーヒー農家にさらなる追い打ちをかけることにもなるだろう。

会合は全米コーヒー協会会員のオフィスや工場が所在する選挙区を考慮した上で調整した。即ち国会議員は自分の選挙区の会員と会い、自分の選挙区の経済や人々が国境調整税でどのような影響を受けるか、より直接的に生の声を聞くことが出来たのである。また下院政策委員会や上院予算委員会等の影響力ある委員会の委員を務める国会議員とも会うことが出来た。

もちろん、全地域に共通するのはコーヒー産業がどれほど米経済に貢献しているかということである。即ち、全米コーヒー協会が初めて実施した調査によると、全コーヒー産業の売り上げ金額は 2252 億米ドル（約 25 兆円）であり、米国国民総生産（GDP）の 1.6%弱を占めていること。コーヒー産業は 1.7 百万人の労働需要を創出し、連邦、州、及び市のコーヒー産業からの税収総額は年間 280 億ドル（約 3 兆 800 億円）に上っていること等である。

ワシントン界限では国境調整税は導入されないとか、提案は流動的な段階に過ぎないとの声も聴かれる。事実、下院の政策委員会は今週、国境調整税について関係者にヒアリングを行っている段階である。全米コーヒー協会はいいいタイミングでコーヒー業界の意見を陳情し悪夢が実現しないことを確実にするための全ての手段を尽くせたと考えている。我々はコーヒー産業の利益を守る活動が、全米コーヒー協会会員、及びコーヒー産業全体から評価される協会の価値であると考えている。

会合は好意的なもので、我々の主張は国会議員及びスタッフの間で前向きに受け止められたようである。現段階で結果を予見することは難しいが、税改革論議の進展に合わせ継続的に活動を強化したいと考えている。事態が進展すれば都度報告させて頂くつもりである。

これとは別の自由貿易への脅威（北米自由貿易協定修正）の問題も話題に上ってきているようである。全米コーヒー協会はこの件やその他の取引問題についても注意深く事態を見守り、何かあればすぐに行動を起こすつもりである。

以上

ートピックス（４）ー

デンマークのサステイナブルブランド社ホームページ（2017年6月12日付記事）から

世界の大手持続可能認証団体のレインフォレストアライアンス（R.A.）とウツカフェ（U.T.Z.）2社は本年度中に認証手続きの簡素化を図ることを目的に合併すると発表した。

新組織名は『レインフォレストアライアンス』とし、引き続き気候変動、森林破壊、貧困、持続可能性など国際農業の環境や社会問題に取り組む。認証を簡素化できるよう2019年までに農家への国際認証基準を統一し、関係企業がより効率的で責任あるサプライチェーンを構築できるよう支援する。新組織は活動を強化するとともに、両者の統合を生かし特にインドからインドネシア及びグアテマラからガーナ地域を優先し、地域全体の環境保護を確実なものとする。

新レインフォレストアライアンスは、農家と企業が互いに持続可能性に向け信頼関係を構築し、需要増に向け農作物を確実に供給できるよう支援する。

新しい認証基準名は『レインフォレストアライアンス標準』とするが、夫々の現行規範であるSAN標準とUTZ標準の強みを生かすと共に、認証保持者には統一監査方法を設定・適用する。新組織は2認証保有者及び新規保有予定のココア、コーヒー、茶農家182000軒をサポートすることになるが、二つの認証標準・認定システムにかかる2倍の管理コストをセーブし、持続可能活動への資金の効率的な利用を図るとしている。

UTZの代表者Han de Groot氏は『現在、多くの農家が二つ、もしくはその他の認証を含め3つの認証を保有しているところもあるが、これでは農家にとりよいサービスだとか多くの利点があるとは言えない。』とし、更に『農家にとって新標準は唯一守らねばならない基準であり、よりよいガイドラインになるだろうと。またコストや労力がセーブできることにもなるだろう』と話している。

両非政府組織（NGO）が既に名の通ったレインフォレストアライアンスの名前を継承するのは消費者の受け入れやすさを狙ったものである。両組織は変化に対応すると共に、U.T.Z.及びR.A.の最も核心的な目標である自然環境の保護を継続し、持続可能な農業管理・森林管理を行い、社会・ビジネスパートナー、政府夫々との約束事の順守の為に貢献するつもりである。

合併後はHan de Groot氏が新レインフォレストアライアンス社のCEOに就任し、R.A.社長のNigel Sizer氏は支援（Advocacy）・領域（Landscape）・生活（Livelihoods）主任企画担当役員（Chief Program Officer）に就く予定である。

新レインフォレストアライアンス社は引き続き持続可能農業ネットワーク（Sustainable Agriculture Network）のメンバーであり、他組織と協力して持続可能な農業を促進する為に貢献するとしている。

以上